

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
話・聞：話す・聞く能力
書 く：書く能力
読 む：読む能力
言 語：言語についての知識・理解・技能

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率(%)	通過率(%)	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年エ	1	一 話の要点を聞き取ることができる。		話・聞	65.0	76.3	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年イオ		二 司会者や発言者の工夫を聞き取ることができる。		話・聞	55.0	59.8	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年イ		三 話の内容を聞き取り、分かりやすく伝えることができる。	◇	話・聞	60.0	78.6	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ウ(イ)、イ(ウ)	2	一 ア 漢字を文脈の中で正しく読むことができる。		言 語	80.0	96.7	
		イ 漢字を文脈の中で正しく読むことができる。		言 語	80.0	97.9	
		ウ 漢字を文脈の中で正しく書くことができる。		言 語	70.0	88.5	
		エ 漢字を文脈の中で正しく書くことができる。		言 語	65.0	91.9	
		オ 漢字を文脈の中で正しく書くことができる。		言 語	50.0	39.7	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ウ(ア)	二	日常使われている簡単な単語について、条件に従って、ローマ字で書くことができる。	◇	言 語	50.0	65.3	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年イ(キ)	三	修飾語の関係について、正しく指摘することができる。		言 語	70.0	45.9	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ア(イ)	四	(1) 文脈に合う慣用句を指摘することができる。		言 語	65.0	20.0	
		(2) 示された慣用句の共通点を見つけ出すことができる。	◇	言 語	70.0	51.2	
B書くこと (1)3・4年ア	3	一 話合いの内容を理解し、標題をつけることができる。		書 く	80.0	47.7	
B書くこと (1)3・4年 アイウエオ		二 資料から必要な情報を集め、条件に合わせて情報を整理して書くことができる。	◇	書 く	45.0	47.8	
C読むこと (1)3・4年イ	4	一 指示語を理解し、適切な文を抜き出すことができる。		読 む	60.0	9.6	
C読むこと (1)3・4年エ		二 筆者の考えに注意しながら読み、要約することができる。	◇	読 む	60.0	55.6	
C読むこと (1)3・4年オ		三 筆者の意見を読み取り、筆者に近い意見を選択し、その理由を考えることができる。	◇	読 む	50.0	37.4	
C読むこと (1)3・4年ウ	5	一 一文に書かれた内容を読み取り、二文の構成にして書き換えることができる。		読 む	60.0	34.3	
C読むこと (1)3・4年ウ		二 会話のやりとりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちについて、叙述を基に適切な流れを指摘することができる。	◇	読 む	60.0	46.9	
C読むこと (1)3・4年ウ		三	(1) 登場人物の人物像について叙述の細かい点に注意しながら読み、自分の考えの事例となる表現に言い換えることができる。	◇	読 む	70.0	31.6
C読むこと (1)3・4年アオ			(2) 登場人物の気持ちを叙述を基に想像し、音読の工夫やその理由をはっきりさせ、自分の考えをまとめることができる。	◇	読 む	45.0	35.9

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内		西 北 管 内						
			青森市	東郡	五所川原市	つがる市	西・北郡				
1	一	話の要点の聞き取り	65.0	76.4	76.8	69.3	71.7	67.8	71.4	75.9	
	二	話し手の伝え方の工夫	55.0	60.1	60.1	59.1	55.4	55.9	54.4	55.5	
	三	話の内容の報告	60.0	79.7	79.8	78.0	74.1	71.9	75.9	75.1	
2	一	ア	「調理」の読み方	80.0	96.9	96.8	98.4	96.8	97.3	97.9	95.5
		イ	「栄養」の読み方	80.0	97.6	97.6	97.6	97.3	97.6	96.7	97.5
		ウ	「ひつよう」の書き方	70.0	87.8	88.0	84.3	82.4	85.7	79.7	81.0
		エ	「お(く)」の書き方	65.0	92.6	92.7	89.8	91.7	93.0	93.8	89.1
		オ	「ち(らかす)」の書き方	50.0	44.7	45.1	37.8	33.7	33.8	47.3	24.4
	二	ローマ字の書き方(しりとり)	50.0	65.2	64.9	70.1	64.8	60.3	79.3	59.7	
	三	修飾語の関係	70.0	49.2	49.0	52.0	37.8	35.9	37.3	40.1	
	四	(1)	文脈に合う慣用句	65.0	23.8	23.7	25.2	10.6	11.4	10.0	10.4
(2)		慣用句の共通点	70.0	55.8	55.5	62.2	46.5	43.0	51.0	47.1	
3	一	話合いを基にした標題	80.0	49.6	49.7	48.0	48.3	48.6	50.2	46.8	
	二	目的に応じた表現(お願いの文)	45.0	47.3	47.5	44.9	48.0	38.9	64.7	46.2	
4	一	指示語の内容(この関係)	60.0	10.0	10.0	9.4	6.0	7.6	4.6	5.3	
	二	筆者の考えの要約 (じゃんけんの関係図)	60.0	56.0	56.1	53.5	56.4	57.8	61.4	51.5	
	三	筆者の考えの選択とその理由	50.0	39.4	39.7	33.9	33.6	27.8	41.9	33.9	
5	一	文章構成(一文を二文に分ける)	60.0	33.5	33.5	33.9	25.4	18.9	34.4	26.1	
	二	叙述を基にした人物の会話の流れ	60.0	47.8	47.7	49.6	44.8	42.4	49.4	44.3	
	三	(1)	叙述を基にした人物像の想像	70.0	31.0	30.7	37.0	26.4	21.9	33.2	26.6
		(2)	音読の方法についての考え	45.0	35.1	34.8	40.9	32.0	24.1	45.2	31.4
教科全体(全小問の総正答数÷全小問の総解答数)			62.4	56.2	56.2	55.9	51.6	49.6	56.2	50.6	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
74.6	74.7	74.9	74.7	73.4	76.9	77.8	72.3	78.4	80.7	81.2	78.7	78.2	78.7	75.8	76.3
58.0	58.7	52.6	58.0	59.4	60.5	60.5	64.6	58.7	60.3	61.1	57.5	62.1	62.4	61.0	59.8
79.6	80.0	85.1	77.0	75.8	81.8	82.0	83.8	80.8	79.1	78.7	80.3	76.4	76.5	76.2	78.6
96.1	96.4	97.2	93.7	96.5	97.5	97.3	98.2	97.2	96.3	96.6	95.3	96.5	96.3	97.4	96.7
97.9	98.1	98.1	96.7	98.0	98.6	99.1	97.9	98.7	98.1	97.5	100.0	97.9	97.9	97.8	97.9
90.7	91.3	90.7	91.1	87.5	90.1	91.6	88.5	89.9	92.2	92.6	90.6	87.9	88.3	86.6	88.5
93.8	93.0	96.7	93.7	95.7	90.4	93.3	87.3	90.0	92.2	91.3	95.3	90.6	91.4	87.4	91.9
36.5	35.6	41.4	36.4	36.7	39.8	39.9	39.5	39.8	41.6	44.3	32.3	39.2	39.5	38.3	39.7
63.5	61.0	79.1	67.7	57.8	68.5	71.6	66.4	67.5	64.3	66.9	55.1	65.2	65.0	65.9	65.3
41.4	40.3	40.0	46.8	42.2	50.9	44.3	51.6	54.7	34.3	33.6	37.0	49.2	49.7	47.4	45.9
19.4	20.5	17.2	19.0	16.4	17.2	17.1	18.0	16.9	17.9	18.8	15.0	22.7	22.6	22.9	20.0
46.8	46.4	44.2	45.4	52.3	55.6	57.6	50.4	56.7	49.5	51.9	40.9	49.7	50.5	46.0	51.2
44.8	44.4	60.9	41.3	37.1	49.2	45.0	48.1	52.2	43.2	43.0	44.1	48.1	47.4	50.9	47.7
50.6	50.8	64.7	50.2	38.3	48.5	56.5	42.8	46.2	42.3	42.3	42.5	46.7	46.4	47.6	47.8
7.7	7.5	7.9	8.6	7.4	11.2	17.1	7.1	9.6	15.2	16.1	11.8	9.9	10.8	6.2	9.6
53.9	53.6	55.8	56.9	50.4	58.5	62.3	58.1	56.4	54.4	55.3	51.2	54.9	56.1	50.0	55.6
35.8	35.6	34.0	34.9	39.5	36.8	39.0	27.1	39.9	41.3	43.8	32.3	37.6	37.4	38.5	37.4
30.9	31.3	35.8	29.7	25.8	37.1	39.7	31.9	37.9	41.1	40.5	43.3	38.2	38.0	39.0	34.3
46.3	46.1	46.0	43.9	50.4	47.2	48.8	43.7	47.8	45.8	50.3	29.9	47.5	47.7	46.3	46.9
30.7	28.8	35.8	34.6	31.3	34.8	39.2	26.8	35.8	30.1	32.7	21.3	33.3	34.0	30.2	31.6
30.9	29.4	34.4	35.7	29.7	40.0	49.2	27.7	39.9	36.2	38.7	27.6	40.0	41.2	34.8	35.9
53.8	53.5	56.8	54.1	52.5	56.7	58.5	53.9	56.9	55.1	56.1	51.5	55.8	56.1	54.6	55.2

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	①一、三		71.6	60.0
書くこと	2		③一	47.7	62.5
読むこと	7		④一、三、 ⑤一、二、三(1)	35.9	57.9
伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	9	②一ア、一イ、一ウ、 一エ、二	②一オ、三、 四(1)、四(2)	66.3	66.7

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す・ 聞く能力	3	①一、三		71.6	60.0
書く能力	2		③一	47.7	62.5
読む能力	7		④一、三、 ⑤一、二、三(1)	35.9	57.9
言語につい ての知識・ 理解・技能	9	②一ア、一イ、一ウ、 一エ、二	②一オ、三、 四(1)、四(2)	66.3	66.7

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、 調査全体の誤答の割合とは異なる)
①二	59.8	イ・エ(25.5)、ア・イ(6.0)、ウ・エ(5.0)、イ・イ(0.5)、 エのみ(0.5)
②三	45.9	ウ(35.0)、ア(13.5)、イ(6.5)、無答(1.0)
②四(1)	20.0	目・歯・口(4.5)、無答(4.0)、手・歯・へそ(3.5)、目・歯・鼻(3.0)、 目・歯・首(2.5)、頭・歯・へそ(2.0)、目・はら・へそ(2.0)
③一	47.7	委員会活動の様子(8.0)、活動内容(6.5)、無答(3.5)
④一	9.6	じゃんけん(60.0)、おにごっこ(5.0)、グーはチョ(5.0)、 何も使わず(3.0)、公平な決定(3.0)、無答(3.0)
⑤一	34.3	問題の文を分けずに別な箇所から二つの文を選んでいる(19.0)、 無答(16.0)、自まんしていました(9.0)、いろいろめずらしい物を手に入れ ていた(3.5)
⑤三(1)	31.6	無答(25.0)、いじっぱり(2.5)、自まんする(2.5)、ずるい(2.0)

- ①二では、誤答の原因として、発言者に関わる内容を選択した解答が多いことから、話の内容から二つの要素を聞き取ることや、問題の題意をきちんと捉えて答えることができなかったことが考えられる。
- ②三では、誤答の原因として、修飾・被修飾の関係を理解していなかったことが考えられる。
- ②四(1)では、誤答の原因として、誤答が多岐にわたっていることから、身近な慣用句について理解できていなかったことが考えられる。

- [3]一では、誤答の原因として、「委員会活動の様子」や「活動内容」という誤答が多かったことから、問題にある話合いの内容が理解できていなかったことや順序を表す言葉への着目、資料の読み取りができていなかったことが考えられる。
- [4]一では、誤答の原因として、「この関係」が指す図の内容と違う文を選択した誤答が多かったことから、図の内容と文の内容との整合性を確認せず、図と文を対応させた読み取りができなかったことが考えられる。
- [5]一では、誤答の原因として、別な箇所から二つの文を選んで解答や無答が合わせて35.0%あることから、叙述から内容を正しく把握し、文構成（主述の関係、修飾・被修飾の関係）を捉えることができなかったことが考えられる。
- [5]三(1)では、誤答の原因として、人物の行動から性格を導き出せなかったことから、文全体から受ける印象だけの読み取りで、叙述を基にして人物像を捉えきれなかったことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の一つ目として、「話すこと・聞くこと」、「話す・聞く能力」の聞くことにおいては、大事なことを聞き落とさないようにしながら、話の中心に気を付けて聞いたり、話し手の意図を捉えながら聞いたりする力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、学級での話合いや集会活動での話題など、様々な場面で何を話しているのかを正確に聞き取ることができるような機会を設定し、大事なことを聞き落とさないようにするとともに、話し手の意図を考えながら聞き取るための聞き方について、継続した指導をすることが大切である。なお、5・6年生で指導する際には、話し手の意図と自分の意見とを比べるなどして、考えをまとめることも大切である。

「活用」に関する問題の課題としては、話し合うことにおいて、互いの考えの共通点や相違点を考え、決まったことをまとめたり、司会や提案者などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合ったりする力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う力を身に付けさせるために、「書くこと」の推敲や交流の指導（活動）とも関連付けた言語活動を設定し、話し手（書き手）としての表現の仕方や効果についても見直させることが大切である。

指導例

事柄を分かりやすく伝える力、大事なことを落とさずに聞く力を高める指導
～单元名『「自分の住む町のよさ」について聞き合おう』（第4学年）～

【指導の流れ】

1 学習の見通しをもたせ、伝える内容の準備をさせる。

学習活動 「自分の住む町のよさ」について、伝えたいことの内容を決めて、自分なりの思いをまとめながら、発表原稿を作る。

2 発表を聞き合い、相手の伝えたいことを落とさずに聞くためにはどうすればよいかについて、グループでの交流（共有）活動をさせる。

学習活動① グループの中で発表会を行い、聞き手が聞き取った要点メモを基に、話し手の伝えたいことの内容や思いを話し合う。



◇◇さんが伝えたい町のよさは、〇〇ですね。その理由は□□だからということが伝わりました。

伝えたい町のよさは前の人と同じですが、□□の他に△△という理由もありました。



ぼくが話した伝えたい町のよさは、〇〇でした。その理由は二つで、□□と△△でした。

大事なことを聞き逃すことがありますね。メモの取り方などを工夫するといいかもしれませんね。



学習活動②

グループでの交流（共有）活動で得られた効果的な聞き方について、学級全体で共有し合い、よりよい聞き方（聞き分け方）、要点メモの取り方を考える。



どのような聞き方やメモのとり方をすればよいのでしょうか。

話したいことの中心は何なのかに気を付けて聞くといいです。話の中心は、はじめや終わり、その両方に分かれて話されていることが多いので、特にその部分に注意したいです。



大事なことは箇条書きにしたり、話の中に何度も出てきた言葉をキーワードとしてメモしたりするといいです。

順序を表す言葉や理由がいくつあるか、時や場所、主語や述語など、話の組み立て方に気を付けて聞き取りたいです。



学習活動③

聞き方のポイントを基に、教師の提示した事例から聞き取りの練習を行い、効果的な聞き方についてまとめ、本単元の振り返りを行う。

ポイント

話し手の伝えたい内容の中心やその理由を正確に捉えながら聞き、話し手と聞き手がお互いの考えの共通点や相違点を整理し合うグループ交流（共有）活動をすることで、情報の聞き分け方や要点メモの取り方など効果的な情報の聞き取り方について児童に実感させる。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の二つ目として、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「言語についての知識・理解・技能」においては、漢字やことわざ、慣用句などの理解を図るために、様々な事例を取り上げ、自分の生活と関連付けながら、文章の中で使える力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、慣用句等の意味を調べ正しく理解し、調べた慣用句等を共有したり、文学的な教材の中で、登場人物の行動をことわざや慣用句に置き換えたりし、国語科で学習したことを、他教科や日常生活の中でも関連付けながら指導していくことが大切である。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の三つ目として、「書くこと」、「書く能力」においては、複数の資料を読み取り、それらを関連付け、条件に合わせて書く力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、必要な資料を収集する、収集した資料やデータを読み解く、複数の資料を関連付ける、全体を通して考えたことをまとめる、新聞やポスター、文章等で表現する等の力の育成が必要である。なお、このことは「活用」に関する問題の課題及び今後の指導とも共通している内容である。

指導例

複数の資料を活用し、相手に分かりやすく伝える文章を書く力を高める指導 ～単元名「道案内をしよう～複数の資料を使って書く～」（第4学年）～

【指導の流れ】

1 学習の見通しをもたせる。

学習活動 ある町の地図や写真、距離、時間等の複数の資料を基にして、初めて訪れた人に目的地までの道案内の文章を書くために必要なことについて話し合う。



目的地までの目印になる建物や場所を書くとは分かりやすいと思うわ。それから、「まっすぐ進む」「右に曲がる」「左へ曲がる」などの進み方についても書くといいわね。他にも道案内のために必要なことがありそうよ。



「まず」「次に」などの順序を表す言葉や、「何番目の角」「何分くらい」などのおおよその時間や距離が分かると、道を尋ねた人は分かりやすいんじゃないかな。

ポイント

相手や目的に応じて、分かりやすく伝えるために必要なことについて、複数の資料を用い、既習事項や経験などを基に話し合わせる。

2 道案内の文章を書かせる。

学習活動 話し合いで出されたポイントを基に、地図のスタート地点からゴールまでの道案内の文章を書く。また、書いた文章を隣の席の人と交換し、アドバイスし合う。



話し合いで出されたポイントを基に、書いた道案内の文章について、直したり書き加えたりするともっとよくなることをアドバイスしましょう。

ポイント

相手の文章のよさを見付けるとともに、より分かりやすい文章にするため、既習事項や生活経験を基に推敲させる。

3 道案内の文章について交流させる。

学習活動 推敲した道案内の文章をグループや学級全体で発表し、よさを確認し合う。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の四つ目として、「読むこと」、「読む能力」の説明的な文章については、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起しつつ、文章の大体を捉えさせ、文と文の関係や段落相互の関係に注目して情報を見付けさせたり、目的に応じて要約させたりすることが大切である。

「活用」に関する課題としては、自分のもっている知識や情報、日常生活等と結び付けて文章を読み、気付いたことをまとめる力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、言葉や文章から読み取れることを自分の知識や経験と結び付けて考え、まとめさせる言語活動を設定することが大切である。なお、その際、複数の資料を使ったり、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連付けて指導したりすることも大切である。

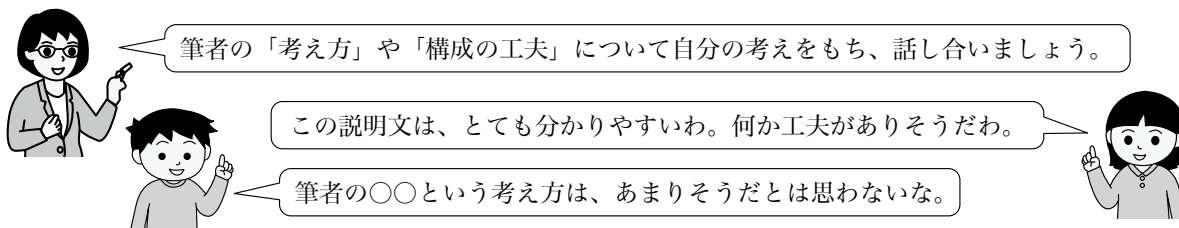
指導例

目的に応じて内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を高める指導
～単元名「評論家になりきって自分の考えや意見を発表しよう」(第5学年)～

【指導の流れ】

- 1 筆者の「考え方」や「構成の工夫」について話し合う学習の見通しをもたせる。
(社会科や算数科、理科等の学習と関連付けるとさらに効果的である。)

学習活動 評論家の職業や仕事について触れたあと、教材文(教科書の説明的な文章等)を読み、
説明文の批評に興味をもつ。



ポイント

- ・評論家の視点から「自分の考えをもち」という課題意識をもたせるとともに、「共感」や「疑問」という観点を基に読み取るという目的意識をもたせる。
- ・「論の進め方」「文章表現」「資料の使い方」等の視点で読み取らせ、「共感」や「疑問」を明確に実感させながら自分の考えを整理させていく方法もある。

- 2 教材文で段落相互の関係図を作らせる。

学習活動① 教材文全体を「はじめ」「なか」「おわり」に分け、大体を読み取る。

学習活動② 各段落に小見出しを付けてカード化し、どのように「おわり」につながっていくか、
関係図に表して考える。

ポイント

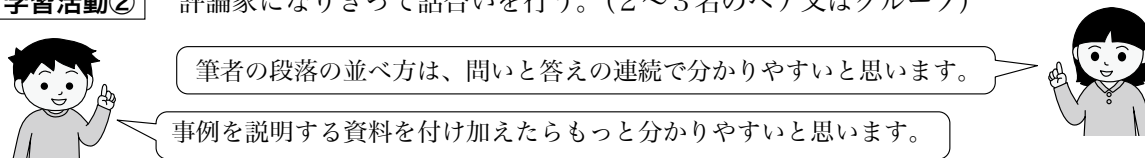
筆者の考えに導くために、事例の文章構成や段落構成を工夫していることに気付かせる。

学習活動③ グループや学級全体で、関係図を基に段落相互の関係や説明の仕方について検討し、
教材文の要旨をまとめる。

- 3 教材文で学んだ、筆者の「考え方」や「構成の工夫」について話し合わせる。

学習活動① 筆者の「考え方」や「構成の工夫」に対する「共感」や「疑問」を基に、自分の考え
をまとめる。

学習活動② 評論家になりきって話し合いを行う。(2～3名のペア又はグループ)



ポイント

筆者の「考え方」や「構成の工夫」について、自分の知識や情報と照らし合わせながら考
えをまとめさせ、話し合わせる。

学習活動③ 話し合ったことを基に、筆者の「考え方」と「構成」について考えたことを改めてま
とめ、今後の説明文作りに役立てる。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の五つ目として、「読むこと」、「読む能力」の文学的文章においては、複数の叙述を基に登場人物の人物像を捉える力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、各場面に描かれた登場人物の行動や会話などに即しながら、それぞれの登場人物の特徴や性格を押さえて読む学習が重要である。登場人物の特徴や性格がよく表れている行動や会話などは複数描かれているため、それらに関係付けながら読むことが必要である。

「活用」に関する問題の課題としては、叙述を基に登場人物の性格や気持ちを想像し、表現する力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、例えば、音読で表現する時には、場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化を捉えさせることが重要である。その際、自分のもっている知識や経験等と結び付けながら、繰り返し何度も声に出して読むことで、想像を広げたり理解を深めたりすることができると思われる。

指導例

音読の工夫について相互評価して登場人物の人物像を捉える指導
～单元名「好きな場面の“音読発表会”をしよう」(第4学年)～

【指導の流れ】 4学年における「白いぼうし」(作:あまみきみこ)を例とした単元の流れ

1 教師による音読を聞き、好きな場面を音読するという単元の見通しをもたせる。

学習活動 違ったモデルの音読を聞き比べて、音読を工夫することへの興味をもつ。



(うれしそうに高い声で)
「早く、おじちゃん。早く行ってちょうだい。」

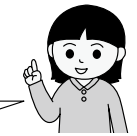
(困ったような高い声で)
「早く、おじちゃん。早く行ってちょうだい。」

読み方によって
違うなあ。



音読するときには注意することは、登場人物の性格や人柄を想像したり、気持ちの変化を想像したりしながら声に出して読んでいくことですよ。

想像した内容によって音読の仕方が変わるのね。登場人物の気持ちが相手に伝わるような声の出し方を工夫しよう。



2 物語を読んで、登場人物の性格や心情を捉えさせた後、グループで音読する場面を決めて台本を作成させる。

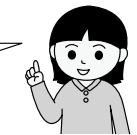
学習活動① 物語を読んで、登場人物の性格や心情、相互関係を捉える。

学習活動② グループで音読する場面の台本作りをして、音読の工夫とその理由を話し合う。

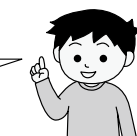
【グループで書いた台本(例)】

場面	人物 (音読する人)	せりふ	読み方の工夫	
			声の出し方	理由
女の子を乗せた場面	女の子 (Aさん)	「早く、おじちゃん。早く行ってちょうだい。」	困ったように速く	「せかせかと言いました」と書いてあるし、早くその場からにげたいという気持ちを表したいから。
	松井さん (Bさん)	(あの子は、どんなに目を丸くしただろう。)	楽しそうに明るく	ぼかっと口をOの字に開けている男の子を思いうかべると、なんだかおもしろいという気持ちを表したいから。
	ナレーター (Cさん)	バックミラーには、だれもうついていません。	ゆっくりと	ふり返ってもだれもいなくて、女の子が消えるという不思議な感じを表したいから。

女の子は、きっと早くにげたいのよね。困っているように速く読むといいね。



松井さんは、「ふふふつ。」と笑っているから、楽しそうな気持ちを伝えよう。



ポイント

- ・自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流させる。
- ・「声の大きさや強さ、読む速さ、間の取り方」などの観点を具体的に示し、どんな気持ちや場面の様子を表現できるか等、交流を通して音読の工夫について考えさせる。

3 グループで音読の練習をして、助言し合い、自分の音読に生かすようにさせる。

学習活動 グループの児童同士で音読を聞き合い、助言し合う。



Bさんは、もう少し楽しそうに音読するといいと思うなあ。実際に、男の子が口をOの字に開けている顔を想像してみたらどうかしら。

じゃあ、だんだんと笑いが込み上げる感じに音読してみよう。それから、速さはどうしようかな。



ポイント

- ・自分の知識や体験、読書経験などと結び付けながら、繰り返し何度も声に出して読むように促し、想像を広げたり理解を深めたりさせる。
- ・自分の感じ方に合った音読になっているかという観点で、児童同士が読み合い、聞き比べをし、お互いに助言し合うように活動させる。

4 台本を基に“音読発表会”を開き、各グループの音読の工夫について評価させる。

キ まとめ

内容・領域についての学習状況及び評価の観点からみた状況は、「話すこと・聞くこと（話す・聞く能力）」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）」においては概ね良好である。しかし、「書くこと（書く能力）」では、資料から読み取った内容と記述において、必要な情報収集と条件についての適合が十分とは言えない。また、「読むこと（読む能力）」では、説明的な文章を読むことにおいて、目的や必要に応じて文章の要点を捉えながら読み、文章を引用したり要約したりすることが十分とは言えない。また、文学的な文章を読むことにおいて、人物像について、自分の考えの形成が十分とは言えない。

今後、「書くこと」の指導においては、他教科等の学習や生活に関連付けながら、明確な目的意識や相手意識をもたせた課題を設定した授業を行うようにしたい。「読むこと」の説明的な文章の指導においては、目的や意図に応じて、複数の資料を意図的に活用させる指導を行うようにしたい。また、文学的な文章の指導においては、複数の叙述を関係付けながら人物像を捉えさせる指導を行うようにしたい。

「活用」に関する問題についての状況は、長い文章や複数の資料等、情報量が多くなった場合の情報の取捨選択や解釈、熟考することにおいては十分とは言えない。

今後は、長い文章や複数の資料を使った指導においては、目的に応じて大まかに読んだり、詳しく読んだりする等、軽重を付けた情報の取り出しをさせる授業を行うようにしたい。また、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童に自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実に向けた取組を進めたい。